

【講義ノート】5月ミニセミナー「本物の英語力の付け方」

本記事は、5月に開催されたミニセミナーの講義録です。今回のテーマは「英語」です。大きく変わっている大学受験や高校受験の最新事情から、家庭でできる具体的な英語の予習・復習法、おすすめの教材まで、英語力を伸ばすためのポイントを詳しく解説しました。

1. 英語学習の「ゴール」を決める

英語の学習は、目的によってやるべき内容が大きく変わります。「留学したい」「英語を使った仕事がしたい」「受験で得点したい」「とりあえず英語を嫌いにならないでほしい」など、まずはどこを目指すのか、ゴールを明確にすることが大切です。今回は、多くの方が直面する「学校の英語」と「受験英語」を中心に解説が行われました。

2. 大きく変わる！最新の受験英語事情

現代の英語の試験は、親世代が経験したのものから劇的に変化しています。

■ 大学受験（共通テストと英検のインパクト）現在の共通テストは、リーディング100点、リスニング100点と、リスニングの比重が非常に高くなっています（※大学によって配点の圧縮比率は異なります）。さらに、難易度も急激に上がっています。昔のような発音やアクセント、単独の文法問題は姿を消し、いきなり長文読解が始まります。パンフレット、Eメール、複数の資料の読み比べなど、実用的な文章を大量に（親世代の倍近い約32ページ）読まされるのが特徴です。単に英単語を知っているだけでなく、「国語の読解力」がないと解けない問題も増えています。

そして、現在最も受験に影響を与えているのが**「英検」**などの外部試験です。英検2級や準1級を持っていると、大学独自の英語試験が免除されたり、満点換算されたりする大学が急増しています。そのため、例えば私立文系志望の生徒が英検を利用して英語をパスし、国語と社会の勉強に全振りするケースが増えており、結果的に社会の合格ラインが跳ね上がるといった現象も起きています。英語（英検）を早く仕上げるのが、受験全体の戦略に直結しています。

■ 高校受験・中学受験 高校受験においても、リスニングの配点増加や、東京都のスピーキングテスト導入など、実践的な英語力が求められています。長文もグラフや表を含むものが多く、文脈から理由を探して答えるなど、思考力を問う内容が増えています。また、首都圏の中学受験では「英語利用入試」を採用する学校が急増（2014年の15校から2022年には146校へ）しており、英検取得が有利に働くケースが多くなっています。

3. 小中学校の英語教育の変化と「二極化」

2020年から小学校で英語が教科化されたことに伴い、小・中・高で学ぶ英単語の総数は以前の約1.5倍(約4,500語)に増加しました。昔は高校生で習っていた「関係代名詞」などが中3に降りてきており、中学生の負担は激増しています。中学生が3年間で必要な英単語を覚えるには、「1日2単語ずつ(週14単語)」覚え続けなければ終わらない計算になります。そのため、現在の中高生は「英語が得意な子」と「全く手がつかない子(英語嫌い)」の二極化が顕著になっています。

4. 英語力を底上げする具体的な学習ステップ

① まずは「英単語」から！ 英語学習の基本は、まず「単語」、次に「文法・長文読解」の順番です。語学学習の最大の特徴は、**「ある一定の量(単語)を覚えるまでは全く成績が上がらず、あるラインを超えると急にわかるようになる」**という点です。中学生であれば600語程度が目安です。単語を覚えるまでの「しんどい時期」をどう励まして乗り越えさせるかが、英語学習の肝となります。

おすすめの単語帳として、「速読英単語(中学版)」と「ターゲット(中学版)」が紹介されました。

- 速読英単語: 文章の中で単語を覚えるため、丸暗記が苦痛な子におすすめ。読解力や文法力も同時につき、内容も面白いのが特徴です。
- ターゲット: オーソドックスな単語帳。暗記カードがついているものもあり、アプリと連動して確認テストも可能です。

※おうち受験コーチングでは、夏休みに毎朝集まって速読英単語を1日1個進める「英単語道場」を開催しており、短期間で一気に約600語をインプットする取り組みも行っています。

② 文法の定着には「見る勉」を活用 文法の総復習には「要点と対策」などのまとめた問題集が便利です。セミナーでは、中学3年間の英文法をA4用紙6枚(各学年裏表1枚)にまとめた特製資料が紹介されました。勉強する時はこれを横に置き、わからない時は**「見ながら解く(見る勉)」**ことを推奨しています。問題集の答えをすぐ見て書き写すだけでは頭を使いませんが、文法まとめ表から「これって何だっけ？」と自分で探すプロセスを経ることで、頭を使い、記憶の定着率が格段に上がります。

③ 最強の定期テスト対策！「予習・復習ノート」の作り方 学校の英語の成績を上げる一番の方法は、丁寧な「予習」です。以下の方法でノートを作ります。

1. 予習(授業前): ノートを見開きで使い、左ページに教科書の英文(本文)と新出単語を書き写します。右ページには、辞書を使って新出単語の意味を書き、それを頼りに「自分なりの和訳」を考えます。
2. 授業中: 自分の考えた和訳が合っているか確認し、間違えていれば修正します。また、先生が「ここ大事！」と言ったポイントをノートの余白(板書スペース)や英文に直接書き込みます。

3. 復習(帰宅後): 帰宅したら、授業でやった英文をざっと読み、頭の中で日本語訳ができるか確認します(5分程度で終わります)。

この古典的なやり方は、延々と単語と「英文和訳」のトレーニングをしているのと同じであり、高校・大学受験の強力な基礎となります。テスト前には、左ページを隠して和訳の練習をしたり、右ページを隠して英語を書く練習をしたりと、このノート1冊で完璧な対策が可能です。もし「全部書き写すのが面倒」という場合は、教科書ガイドを活用したり、QRコードから音声を聴いて大体の意味を把握してから授業に臨むだけでも効果があります。

④ プラスアルファの学習(リスニング・多読) 語学は触れる頻度が高いほど上達します。

- **NHKラジオ基礎英語**: 1回15分、週3回程度でも継続することで大きな力になります。
- **多読**: 「Penguin Readers」や「Oxford Reading Tree」など、自分のレベルに合った英語の本をたくさん読むことで、長文への抵抗感がなくなり、読解力が磨かれます。
- **日常の工夫**: 好きな洋楽を聴く、映画を英語字幕で見るなど、お子さんが楽しく英語に触れられるきっかけを作ること大切です。

5. 参加者からのQ&A

Q. 学校で教科書を使わず、先生のオリジナルプリントで授業が進むため対策がしにくいです。

A. その場合は、プリントの復習を徹底してください。もし、過去の単語や文法に抜けがあるせいでテストの点が取れないようであれば、学校の進度とは別に「中1英語 7日間完成」などの薄くてサクッと終わる問題集を買い、基礎固めを並行して行うのがおすすめです。

Q. リスニングは得意ですが、単語を覚えるのが苦手(嫌い)なようです。

A. リスニングが得意であれば、ベースの力はあります。一人でコツコツ単語を覚えるのが苦手な子は、夏休みの「英単語道場」のように、時間を決めてみんなで一気に取り組む環境を利用すると、勢いで乗り切れることが多いです。

まとめ

英語はすぐに結果が出ないため、モチベーションの維持が難しい教科です。しかし、正しいやり方(単語→文法→予習復習)でコツコツと学習を続ければ、ある日突然「わかる!」というブレイクスルーが訪れます。焦らず、お子さんのレベルに合った小さなステップから始めてみてください。